



アルテピア

一般社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025

<http://www.artepia.or.jp>



本郷新《嵐の中の母子像》

1953年 樹脂 145×179×62cm (本郷新記念札幌彫刻美術館蔵)

母は右手で産着にくるまった赤子を胸に抱き、左手でもう一人の子をしっかりと自分の体に引き寄せる。前かがみになった母の手は大きく力強い。この母子の行く先を見つめているのは、母の背にしがみついた少年ただ一人だ。

作者の本郷新(1905-1980)は、戦後日本の具象彫刻を牽引した札幌生まれの彫刻家。高村光太郎に師事し、ロダンをはじめとする西洋近代彫刻の影響を受けた。彫刻の社会性、公共性を重視して野外彫刻の制作に熱意を注ぎ、その数は約80点にも及ぶ。

本郷の《嵐の中の母子像》は、1953年に新制作協会展に出品された。その後、広島市民の熱意により集められた鑄造費で、石膏原型から新たにブロンズ像が制作され、1960年、広島市平和記念公園に設置さ

れた。そのほか、札幌の北海道立近代美術館前庭、長万部町平和祈念館前庭、京都の立命館大学国際平和ミュージアム内でも見ることができる。

母子像の伝統は長く、幅広い。古くから、聖母マリアとキリストを表した聖母子像はキリスト教美術の最も重要な画題のひとつであった。異なる文化圏、たとえばアフリカにおいても母と子の情感を表した母子像がつけられている。母子という一対の人間の関係性は、さまざまな時代と文化において表現され、時に家族の代名詞にもなってきた。

写真の《嵐の中の母子像》は、現在当館で開催中の「New Eyes 2017 家族の肖像」展(7/22~10/1)に出品されている。

(本郷新記念札幌彫刻美術館 山田のぞみ)

平成29年度アイヌ工芸品展

いのち
現れよ。森羅の生命

木彫家 藤戸竹喜の世界

10月14日(土)▶12月17日(日) 札幌芸術の森美術館 学芸員 佐藤 弥生

藤戸竹喜は、1934年、北海道美幌町に生まれ、旭川を拠点に「熊彫り」を生業としていた父のもとで木彫制作を始めました。以来、一貫して木彫にとりくみ、熊や狼、ラッコやシャチ、北に生きた先人たちの姿を木に刻み、繊細さと野性味が交差する独自の木彫世界を築いてきました。現在では北海道を代表する木彫家として、またアイヌ民族の彫りの技を伝える作家として、国内外から高い評価をうけており、平成27年度に北海道文化賞、翌28年度には文化庁から地域文化功労者として表彰されています。

本展では、熊や鹿などの俊敏な動きをとらえた初期作から、民族の歴史と威厳をモニユメンタルに伝える等身大人物像まで、半世紀以上にわたる創作活動の軌跡をふりかえります。

藤戸竹喜は、木彫り熊の名手として知られた父の傍らで、幼い頃から木彫りに取り組みます。やがて、父に連れられ、阿寒湖や洞爺湖、函館など道内各地の観光地で木彫り熊の実演を行い、腕を磨きました。自然の美しさに魅せられ、阿寒湖に移り住んだ後は、土産物店の店頭で木彫りの実演、制作を行います。藤戸の作る木彫り熊は、「這

い熊(四つんばいになった熊)、「立ち熊」

(二本足で立つ熊)、「鮭食い熊」(鮭をくわえた熊)などの木彫り熊の定型的なポーズにとどまらない、さまざまな動きのあるもので、熊の勇猛さ、愛くるしさを生き生きと伝える作品は大いに人気を博しました。

1970年代に制作された初期作

品のうち、鹿や狼、兎など、野生動物の生きた姿をとらえた作品群は必見です。鹿を襲う熊や兎を捕らえる狐な

ど、そこでは、捕食するもの・されるものが練り広げる野生の営みが活写されます。動物の姿を正確に彫り刻む技



藤戸竹喜《兎を捕る狐》1978年 作家蔵 撮影：露口啓二



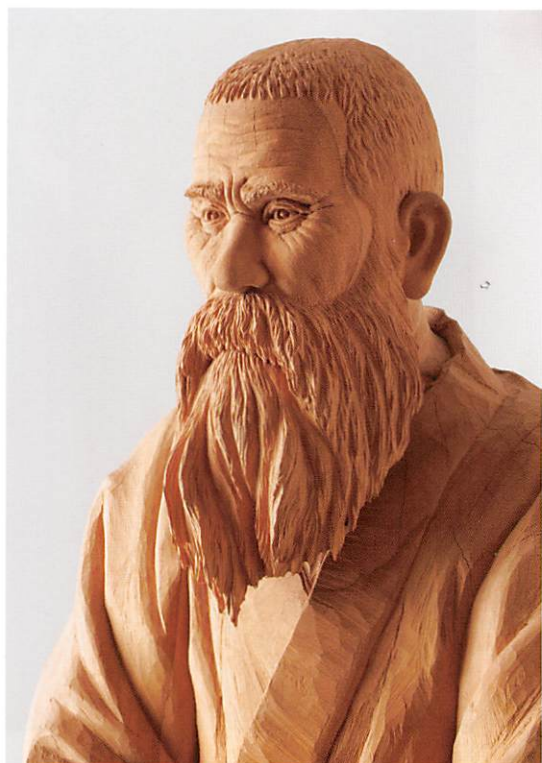
藤戸竹喜《鹿を襲う熊》(部分)1977年 作家蔵 撮影：露口啓二

術はもちろんのこと、野生動物の時に荒々しく、時に繊細な表情を大胆に表現する藤戸の木彫世界に引き込まれていくようです。

1968年、藤戸は、阿寒湖の自然保護に尽力していた前田一歩園三代目園主の前田光子氏から、亡き夫の供養のために観音像の制作を依頼されます。藤戸は、初めて挑む仏像制作のために京都や奈良の寺院を見て歩き、阿寒という地に安置するにふさわしい観音像を模索します。周囲の支えもあり、依頼から一年後、ついに完成した観音像は制作の大きな転機となりました。以後、藤戸は、自身の祖母の姿を刻んだ《藤戸タケ像》(1992年、国立民族学博物館蔵)、旭川の著名なアイヌの長老の威厳ある姿を顕した《川上コ

ヌサ像》など、北の地に生きた先人たちの姿をモニュメンタルに表現する等身大の人物像を制作することになります。

1990年代以降、藤戸は生きとし生けるものすべてを彫り刻まんとするようになり、シヤチャ鯨、蟹、ラッコ、白熊、狼、生きとし生けるものの躍動感あふれる姿を刻み続けます。巧みに細部まで作りこまれた作品は、今にも動き出さんばかりです。また、そうした生き物たちへそがれた慈愛に満ちたまなざしも、藤戸作品の魅力のひとつでしょう。たとえば、《砂潜りのカレイ》という作品では二匹のカレイが登場します。



藤戸竹喜《川上コヌサ像》(部分)1993年
作家蔵 撮影：露口啓二

砂地にもぐり一匹のカレイの口に釣り針がかかり、今にも釣り上げられんとするその様子を、仲間なう一匹のカレイが心配そうに見つめています。《親子熊》では、まるで駄々をこ



藤戸竹喜《砂潜りのカレイ》(部分)1994年 株式会社ほくみん蔵 撮影：露口啓二

ねているような小熊を、しようがないなあと優しく見守る母熊の愛情あふれる姿が印象的です。

いずれも、切り取られた一瞬の情景の背後にある物語を思わず想像したくなるような作品ばかりです。また、本展にあわせて、かつて北海道の地に生きたエゾオオカミと、オオカミに育てられた少年の物語をつむぐ新作も出品されます。

「木彫家 藤戸竹喜の世界」展では、会期中、前期・後期での作品の入れ替えを予定しており、会期を通じて全約



藤戸竹喜《親子熊》(部分)2004年 作家蔵

110点の作品が一堂に会します。藤戸竹喜が織り成す、森羅の生命が躍動する世界をぜひお楽しみください。

巡回先のご案内

国立民族学博物館

(大阪府吹田市千里万博公園10-1)

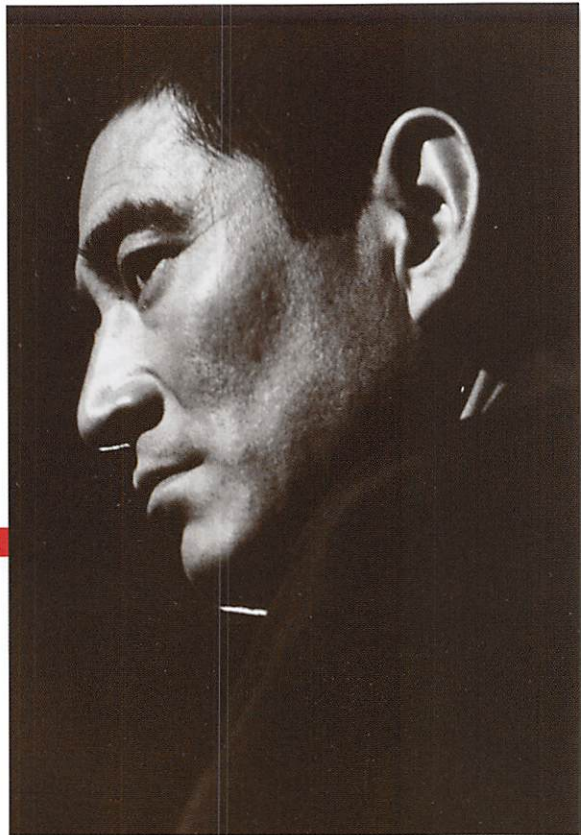
2018年

1月11日(木)～3月13日(火)

追悼特別展

高倉 健

KEN TAKAKURA



2017年9月12日(火)～11月12日(日)

北海道立帯広美術館

2014年11月10日に世を去った高倉健(享年83歳)。本展は、映画俳優・高倉健の偉大な足跡をたどり、顕彰しようとするもので、最大の見どころは、生涯で出演した作品205本すべてから抜粋した高倉健出演場面の映像の紹介です。また、映像とともに、高倉健が所蔵していた脚本や小道具、スチール写真、ポスター、プレスシートなど、貴重な資料もあわせて展覧。大画面の映像とさまざまな資料類を体系的に展示し、表現者としての高倉健を浮き彫りにします。

高倉健が東映ニューフェイス第2期生として、25歳で「電光空手打ち」でデビューしたのが1956年。サラリーマンものや大学青春ものなどに出演し、映画俳優としての個性を確立していきます。

続いて60年代半ばから70年代初頭まで、すなわち東京オリンピックから70年安保闘争に至る時期は、「網走番外地」シリーズや「昭和残侠伝」シリーズなどの仁侠映画で一時代を築きます。

76年、約20年にわたり在籍した東映を退社した後、「八甲田山」(77年)、「幸福の黄色いハンカチ」(77年)、「野性の証明」(78年)などの大作に主演。新たな境地を切り開いた高倉健の出演作は、常に話題となり、数々の受賞を重ねていきます。

80年代以降は、年1本弱と出演をしばらく、「南極物語」(83年)やマイケル・ダグラスと共演した「ブラック・レイン」(89年)などの名作にコンスタントに出演を続けます。晩年は出演作をじっくり選び、「鉄道員(ぽっぽや)」(99年)や遺作となった「あなただけ(12年)」などは、各方面から大きな注目を集めました。

2013年には文化勲章を受章。男の気概や人情を表現した出演作の数々は、戦後から現代に至

る日本の社会史の動向と重なり、比類なき存在感を誇っています。

高倉健は、北海道との縁が深く、道内を口ケ地とする作品に30本以上も出演していることが特筆され、三回忌を機に企画された高倉健の巡回展が北海道で開催される意義は、きわめて大きいといえます。

北海道をこよなく愛した稀代の映画俳優・高倉健の全貌を、この機会にぜひご覧ください。

本展は当館に続き、近代美術館、函館美術館でも開催されます。

(北海道立帯広美術館学芸課長 光岡幸治)



「鉄道員(ぽっぽや)」1999年 ©「鉄道員(ぽっぽや)」製作委員会

MUSEUM CALENDAR

2017.9～2018.3

美術館のおもな展覧会ご案内

 は特別展示室 は常設展示室

	9	10	11	12	1	2	3	
近代美術館	開館40周年記念 8/26(土)～10/15(日) 北海道新聞社創業130周年記念 ゴッホ展 巡りゆく日本の夢		10/22(日)～ 10/29(日) 天慧社 50周年 記念展	芸術週間 11/1(水)～ 11/7(火) 近美と協力の 40年	開館40周年記念 11/22(水)～1/21(日) 追悼特別展 高倉 健		STV創立60周年記念 2/3(土)～3/25(日) 「ワだば、ゴッホになる。」 棟方志功展	
	開館40周年記念 8/26(土)～11/7(火) 第Ⅱ期 名品展 1F 北海道美術50—名作の秘密を探る 2F 北海道の陶芸 新たな炎の挑戦 ふれるかたち 8/26(土)～9/12(火) この1点を見てほしい — 寺島春雄<黒い軌章の行進>			開館40周年記念 11/22(水)～4/12(木) ワンダー☆ミュージアム 第Ⅲ期名品選 キスリング《オランダの娘》他 11/22(水)～2/2(金) この1点を見てほしい — 中島利雄《教会の見える風景》		9/13(水)～11/7(火) この1点を見てほしい — 池谷寅一<初秋小憩>		
三岸好太郎美術館	開館50周年記念 特別展— 札幌国際芸術祭2017公式プログラム 9/2(土)～10/1(日) 大友良英アーカイブ 三岸好太郎ワークス		10/2(月)～2/23(金) リニューアル工事のため休館			開館50周年記念 リニューアル記念— 2/24(土)～4/11(水) mima 明日へのアーティストたちとともに		
旭川美術館	8/29(火)～10/28(土) 招き猫亭コレクション 猫まみれ展		開館35周年記念— 11/4(土)～1/14(日) プレミアム・コレクション			2/6(火)～3/31(土) アート・クイズ・ギャラリー		
	4/21(金)～10/28(土) イメージの森—木から生まれる		11/1(水)～3/31(土) HOKKAIDO 北の美術セレクション			TEL 0166-25-2577 旭川美術 <input type="button" value="検索"/>		
函館美術館	9/2(土)～ 9/30(土) ボイラー工事 のため休館	10/4(水)～10/27(金) 生誕120年記念 田辺三重松展	11/3(金・祝)～1/21(日) 招き猫亭コレクション 猫まみれ展 アートになった猫たち 浮世絵から現代美術まで		1/31(水)～3/31(土) 追悼記念展 高倉 健			
	10/4(水)～1/21(日) タッチ! 書と絵画にみる「筆触」 ころろを筆にのせて—金子鶴亭と近代詩文書		1/31(水)～3/31(土) マリアージュ—文学とアートが会おうところ 高麗青磁と李朝白磁		TEL 0138-56-6311 函館美術 <input type="button" value="検索"/>			
帯広美術館	9/12(火)～11/12(日) 追悼特別展 高倉 健		11/25(土)～2/25(日) FACE/わたしとあなた —アフリカン・マスクから舟越桂まで					
	9/12(火)～11/12(日) 生誕120年 能勢眞美 新収蔵《ゴルフを遊ぶ庭》初公開		11/25(土)～2/25(日) 北海道・道東ぐるり旅			TEL 0155-22-6963 帯広美術 <input type="button" value="検索"/>		
釧路芸術館	9/9(土)～11/12(日) 空想と旅の画家 安野光雅の仕事		ももちゃん芸術祭2017—かたちの冒険 11/22(水)～1/21(日) Part I			2/2(金)～3/14(水) Part II		
	9/9(土)～10/4(水) 《我が町のお宝》展 —弟子屈町から		12/23(土)～1/14(日) 冬のキッズアトリエ			TEL 0154-23-2381 釧路芸術 <input type="button" value="検索"/>		
札幌芸術の森美術館	8/6(日)～10/1(日) 札幌国際芸術祭 2017	10/14(土)～12/17(日) 藤戸竹喜展		1/3(水)～2/25(日) 新海誠展		3/10(土)～ 4/22(日) 芸森の名品Ⅱ		
	10/14(土)～12/17(日) 札幌芸術の森美術館コレクション選		1/3(水)～2/25(日) 札幌芸術の森美術館コレクション選		3/10(土)～4/22(日) 札幌芸術の森美術館 コレクション選		TEL 011-591-0090 芸術の森 <input type="button" value="検索"/>	
本郷彫刻美術館	7/22(土)～10/1(日) New Eyes 2017 家族の肖像	【第1期】10/7(土)～11/5(日) 【第2期】11/8(水)～12/10(日) 記憶素子 丸山隆と教え子たち		12/16(土)～4/15(日) コレクション展 ふれる彫刻・手でみるアート			2018年1月下旬 さっぽろ雪像彫刻展2018	
	4/22(土)より通年 本郷新の人と芸術		TEL 011-642-5709 本郷新彫刻美術 <input type="button" value="検索"/>					

○開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで) ※芸術の森9:45～17:00 (6月から8月は17:30まで)
 ○休館日 ●毎週月曜日(月曜日が祝日又は振り替え休日のときは開館、翌火曜日休館)
 ●年末年始(12/29～1/3) ●展示替え期間(展覧会と展覧会の間)
 ※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。
 ※会員証の利用について 貸館の観覧は会員証が利用できない場合がありますので、ご了承願います。

近代美術館

開館40周年記念 **ワンダー☆ミュージアム**
11月22日(水)〜平成30年4月12日(木)

大人も子どもも楽しめる展覧会、「ワンダー☆ミュージアム」。今年度は「夜」をテーマとします。

夜は、毎日かならず訪れるものですが、知っているようで知らない世界といえます。見慣れた風景も、昼と夜とでは、まるで異なる場所のように見えます。また、子どもたちにとっても、夜は自由に外出できない、寝なくてはいけないなど制約の多い時間帯です。それゆえに夜の情景は、子どもたちをワクワクさせます。

児童文学や童謡などには、夜中におもちゃが動き出したり、外の世界を冒険したり、おぼけや怪物が登場したりといった、夜を舞台にした内容のものが数多く存在します。子どもたちはそれらに触れて想像力を豊かに膨らませてきました。

本展では、夜を感じさせる作品をご紹介します。昼とは違った様相を見せる夜の風景画や、暗がりの中での作品鑑賞など、夜の世界をお楽しみください。



国松登《星月夜》1992年

三岸好太郎美術館

開館50周年記念 特別展 / 札幌国際芸術祭2017公式プログラム
お月さままで飛んでいく音 飛ヒ出ス事ハ自由多
大友良英アーカイブ + 三岸好太郎ワークス
9月2日(土)〜10月1日(日)

大友良英と三岸好太郎の共演による特別展「大友良英アーカイブ+三岸好太郎ワークス」を開催します。

ひとつめのセクションは「大友良英アーカイブ」。音楽家・大友良英は、ノイズや即興といった実験的な音楽からジャズやポップス、劇伴などジャンルを横断し、多種多様な音楽を生みだしてきました。そうした表現世界のルーツや、彼の「アンサンブルズ」という思考と結び合う多彩な活動の有り様を、アーカイブ資料を中心にたどりまします。ふたつめのセクションは「三岸好太郎ワークス」。

画家・三岸好太郎は、わずか10年余りの画業のうちには作風を日まぐるしく変化させ、独自の絵画世界を展開しました。素朴な人物画を得意とした初期、東洋風からやがて西欧近代絵画に傾いた中期、そして前衛的な表現を志向するに至った晩年まで、その代表作を中心に紹介します。

ともにジャンルや枠組みを飛び越えて、それぞれの表現をひらいてきた大友と三岸。二人の軌跡が吹き抜ける空間にクロスする、初めての展覧会です。



三岸好太郎《飛ぶ蝶》1934年 当館蔵



大友良英アーカイブよりギターケースとレコードプレーヤー

旭川美術館

招き猫亨コレクション **猫まみれ展**
アートになった猫たち 浮世絵から現代美術まで
8月29日(火)〜10月28日(土)

全国各地で話題の猫まみれ展がついに旭川にやってきました！

会場には、猫と猫の作品を愛する謎のコレクター、招き猫亭が約40年にわたり集めてきた油彩画、日本画、版画、彫刻、陶磁など約300点が勢ぞろい。江戸時代の浮世絵師・歌川国芳から、19世紀末パリの画家・スタンラン、日本近代絵画史に名を残す竹久夢二、レオナルド・フジタ(藤田嗣治)、岸田劉生そして現在活躍する横尾忠則、三沢厚彦、山本容子らまで、

個性豊かな作家たちの猫愛あふれる作品をご紹介します。なかでも、足利氏と新田氏の血を引く岩松氏の殿様が描いた「新田猫」は見所の一つ。江戸後期から明治初期にかけて、養蚕が盛んな群馬でネズミ避けのご利益があると信じられていたもので、現在はほとんど残っていない貴重な作品です。



高橋弘明《ジャパニーズ・ポプテイル》1924年

函館美術館

生誕120年記念 **田辺三重松展**
10月4日(水)〜10月27日(金)

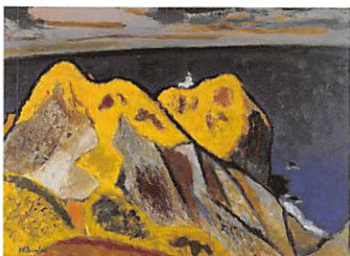
「北海道の、あのスケールの大きい自然を、愛しつづけて来た」(田辺三重松「北海道の自然」『風景の描き方』1960年)

函館に生まれ育ち、北海道の雄大な自然を大胆な色使いと力強いタッチで描き続けた田辺三重松(1897〜1971)の画業を、当館のコレクションを通じて回顧します。

三重松は、函館商業学校(現・北海道函館商業高校)在学中に絵画に関心を抱き、卒業後は家業に従事しながら制作を続けました。やがて画業に専念し、二科会などを主な活動の舞台として、函館とその近郊に取材

した風景画を発表しました。戦後は、行動美術協会と全道美術協会(全道展)の創立会員として活躍します。1967年に網膜剥離のため右眼の視力を失う悲劇に見舞われましたが、その後も精力的に制作を続け、『神威岬』などの秀作を残しました。

本展は、当館所蔵の田辺三重松の作品を、三重松が折々に残した言葉を交えながら展示し、三重松の歩みと作品の魅力と作品の魅力をわかりやすくご紹介いたします。



田辺三重松《神威岬》1969(昭和44)年 函館市蔵(当館受託)

帯広美術館

FACE／わたしとあなた

—アフリカン・マスクから舟越桂まで
11月25日(土)～2月25日(日)

人間の顔や姿かたちは、これまで多くの芸術家によって表現されてきました。私たちは、それらの作品に見出せるのでしよう。

私たちは他者と関わり様々な価値観に出会います。この出会いは、自己を省み、相手に想いを馳せ、そして人間のありようについて広く考える契機ともなりえます。

美術作品に目を向けてみると、自画像や家族の肖像をはじめ、顔貌に注目したものの人間像を題材としたものは、芸術家がま

さに「わたし」や「あなた」を見つめ、向き合ってきた軌跡と言えます。これらの作品は、人と人とのつながりの中でいかに生きるかを考えさせてくれるでしょう。本展では、近現代の人物画や立体作品、アフリカの仮面などにより、自己と他者をめぐる様々な表現をたどりま。



〈ソング族の仮面「キフェベ」
コンゴ(旧ザイール)〉
制作年不詳、札幌芸術の森美術館蔵
(橋本信夫・邦江コレクション)

釧路芸術館

空想と旅の画家 安野光雅の世界

9月9日(土)～11月12日(日)

さかさまの世界、この世にはない風景、ことば遊びの絵……。そうした不思議で想像力をかきたてる数々の作品を描いたのが安野光雅です。

安野は1926(大正15)年島根県津和野町に生まれました。画家に憧れた彼は、山口師範学校研究科を経て、小学校で図画や工作を教えながら、本の装丁や挿絵などを手掛けていきます。1968(昭和43)年に出版された絵本『ふしぎなえ』で絵本界にデビューし、豊かな知識と想像力を駆使した独創的な表現は大きな反響を呼びました。代表作『ABCの本』は国内にとどまらず国

外で翻訳、出版され広く知られています。

この展覧会ではデビュー作「ふしぎなえ」から、近作まで、絵本原画を中心に約130点の作品を紹介いたします。

美術、科学、数学、文学、歴史などへの深い造詣と卓越したセンスから生み出された、空想とユーモアあふれる世界を、どうぞお楽しみください。



『旅の絵本III イギリス編』1981(昭和56)年

札幌芸術の森美術館

新海誠展

—「ほしのこえ」から「君の名は。」まで—
2018年1月3日(水)～2月25日(日)

昨年公開の劇場アニメーション『君の名は。』が大ヒットを記録し、一躍時の人となったアニメーション監督、新海誠。札幌芸術の森美術館では、彼の商業デビュー15周年を記念して、2018年1月3日から2月25日まで「新海誠展—ほしのこえ—から『君の名は。』まで—」を開催する。

新海誠は2002年、制作のほとんどを一人で行ったデジタル・アニメーション『ほしのこえ』で衝撃的な商業デビューを飾っ

た。その後も、主題歌そのものを演出として大胆に挿入した『秒速5センチメートル』や、感情や関係性のうつろいを天候や光の情景描写によって見事に描き出した『言の葉の庭』などを公開し、現代アニメーションの新時代を築く人物として国内外から高い評価を受けている。

本展覧会では商業デビュー作『ほしのこえ』から、最新作『君の名は。』までを網羅し、絵コンテやレイアウト、設定資料などを手がかりに新海誠の作品の魅力にせまる。

新海誠展
EXHIBITION OF
Shinkai
Makoto

「ほしのこえ」から「君の名は。」まで

本郷新記念札幌彫刻美術館

記憶素子 —丸山隆と教え子たち—

【第1期】10月7日(土)～11月5日(日)
【第2期】11月8日(水)～12月10日(日)

彫刻家丸山隆とその教え子たち20名の作品で構成し、丸山が後進の育成に果たした功績を検証します。丸山は、1954年に長野県に生まれました。東京藝術大学大学院で彫刻を専攻後、北海道教育大学札幌校で教鞭をとり、1000名以上の教え子を世に送り出しました。『残留応力』や『不可視コード』など、代表作のタイトルにも明らかのように、丸山は、自然の内奥にひそむ原理に強い関心を抱き、その造形化に取り組みました。石彫やブロンズ、鉄をはじめ幅広い素材を用い、目に見えないものを抽象的な形態で表現する旺盛な作品制

作をおこなってきました。一方、その薫陶を受けた後進たちの作品も、師に負けず劣らず、石彫からインスタレーション、映像作品まで、多様な広がりを見せています。

本展で作品とともに紹介されるのは、丸山が弟子たちに折にふれて投げかけた「ことば」の数々です。作家として、師として活動した丸山の芸術性と思想を回顧しながら、今を生き新たな作品を生み出し続ける教え子たちの表現に迫ります。



丸山隆『残留応力』1992年

A・RE・KO・RE information

あっ、できちゃった! 私のきせかえタンブラー

アート・クラブ2017

7月1日に開かれたマスキングテープやシール、デザイン紙などを使用し、タンブラーの周りを楽しくデザインするワークショップ。延べ人数90名を超える親子が近美2階ロビーに集まった。



協会のボランティアスタッフ指導のもと、親子そろって製作を楽しんだ。「猫の絵を描くのが楽しかった」「星の型抜きが良く出来た」。切ったり、貼ったり、巻いたりそれぞれ工夫して作り上げた作品には、参加した親子のみならず、指導スタッフにまで笑顔が広がっていた。

- 今後開催されるアート・クラブのお知らせ
- ジュニア・アート・クラブ
11月4日(土) 10:00 ~ (小学生募集)
- アート・クラブ
2月17日(土) 10:00 ~ (随時参加)

近美 Museum Shop

美術館にお越しの際はどうぞお立ちより下さい



おはなし名画シリーズ
「ゴッホとゴッホ」
2,912円



メガネケース(クロス付き)
モネ「睡蓮」
クリムト「農家の庭」
各1,296円



陶器 マグカップ 大 3,000円
小 2,400円
作家 中島知之



アイヌ文様 トートバッグ
サイズ(34×30.5×8)cm
8,000円
作家 小川早苗

会員確保のイベントを開く

—7月17日・道みんなの日に—

道は今年から、7月17日を「北海道みんなの日」と決め、一部の施設を無料で開放しました。近美の常設展も入場無料となり多くの方々を訪れました。当協力は館内に特設ブースを設け、会員確保のPRや、「図録蚤の市」を行いました。

大勢の方が立ち寄ってくれ、そのうち7人が入会しました。また、ボランティアの皆さんから提供された図録や絵葉書の「蚤の市」も好評で、売上げは約4万8千円になりました。

11月1日から行われる「アルテピア感謝ウィーク」でも「図録蚤の市」を開催する予定ですので、引き続き、不要な図録や絵ハガキの提供をお願いします。

詳しくは事務局まで。TEL011(644)4025



主なイベントのご案内

《近代美術館》

11月1日(水)~11月7日(火)

- 芸術週間 開館40周年記念
北海道美術館協会アルテピア設立40周年記念

近美と協会の40年

観覧料無料

Art week Special

主催:北海道近代美術館、北海道美術館協会アルテピア

● ギャラリー・ツアー

ボランティアによる近美コレクション鑑賞ガイド・ツアー
火~土曜日 11:30、13:00(1階) / 14:00(2階)
このほか、申込みに応じて随時行います。
(申込:観覧日の10日前まで)

● ミュージアム・トーク

学芸員による展示作品についての講話
日曜日 14:00~14:30(展示室A入口に集合)

《三岸美術館(mima)》

● ギャラリー・ツアー

ボランティアによる展示作品の鑑賞ガイド・ツアー
13:00から15:00の間の30分間
祝日とイベント開催日を除く毎日
10月2日(月)から2月23日(金)までリニューアル工事のため休館します。

《アルテピア》

● 美術への誘い

ボランティアによる美術案内

- ▶ 9月12日(10:00~12:00) 清田区民センター ふれあい学園
- ▶ 9月26日(10:00~11:30) 中央区民センター いきいき講座
- ▶ 10月11日(10:30~12:00) 介護予防センター旭丘
- ▶ 11月 9日(10:30~12:00) 介護予防センターまえた

会員の確保や設立40周年記念事業 —今年度の定時総会開催される—

去る6月8日、近美講堂において今年度の定時総会が開かれました。

冒頭、吉野会長から、「昨年は新規会員の確保対策を図り概ね100人の会員の増加をみたが、協力会の財政事情から、さらに会員確保を拡大していく必要がある。また、本年度は設立40周年記念事業に取り組むが、これを契機に役員をはじめ会員の協力を得て、さらに会員確保に努め財政、組織の健全化を図りたい」と挨拶がありました。

議事および報告内容は次のとおり。

平成28年度事業報告・収支決算報告

原案どおり承認可決されました。事業の実施状況は、ほぼ当初の計画通りに進めることができました。収支決算については次ページ(表1)の通りです。

平成29年度事業計画・収支予算

事業計画および収支予算については、昨年の総会において定款の改定があり、理事会の承認事項となったため、その内容が報告されました。主な事業は次の通り。なお、収支計画は、次ページ(表2)の通りです。

- 1 会員確保特別キャンペーンの実施。
- 2 協力会設立40周年記念事業として各種のイベントなどの実施。
- 3 従来、美術講座受講生のみを対象としていたボランティア活動員の募集を、期間を定め一般からも募集することとした。

このほか、監事、納谷信二氏の退任に伴い、後任に黒田幸男氏が選任されました。

和気あいあいと交流 —つどい2017—

平成29年度の総会后、近美1階ロビーで恒例の「つどい2017」が開かれました。近美関係者、アルテピア会員、ボランティア活動員らが一堂に会する年に1度の交流の場、今年は105名の参加がありました。

佐々木忍弥さんら3名によるダイナミックな津軽三味線が響くなか、参加者は軽食をつまみながら和やかな語らいの時を過ごしました。



ダイナミックな演奏を披露してくれた
佐々木忍弥、佐藤文彦、荒川俊瑤の各氏



軽食をつまみながら歓談

アルテピア感謝ウィークの開催 11月1日から7日まで40周年記念事業

協力会の40周年記念事業は11月1日(水)～7日(火)を「アルテピア感謝ウィーク」とし数々の事業を展開することとしました。

期間中には特別プログラム「近美と協力会の40年」と題し、協力会寄贈作品と近美コレクションの特別展示を行い、学芸員の解説が行われます。

また、「図録蚤の市」を近美1階ロビーで行います。このほかの事業は次の通りです。

● 記念講演

作家・北海道文学館館長の池澤夏樹氏による記念講演が11月3日(金)午後1時30分から近美講堂で行われます。

● 親子アートクラブ

彫刻家ダム・ダン・ライ氏の指導で11月4日(土)午前10時から近美2階ロビーで開かれます。

● クラシックコンサート

「COTOHA(コトハ)」によるピアノと声楽のコンサートが11月5日午後2時30分から近美1階ロビーで開かれます。

このほかの記念事業としては、すでに「秋田・青森 美術館と郷土に触れる4日間」の美術研修旅行が実施されました。また、明年1月に会報「アルテピア」の40周年特集号とボランティア活動の5年間のあゆみVIII「美術館とともに」を発行します。

新会員確保に向けてキャンペーンがスタート

昨年来から積極的に進めている会員の確保対策は、今年度も「会員募集特別キャンペーン」とし、通年で取り組むこととなりました。

今年度は新規個人会員300人、新規法人会員30社を加入目標とし、役員・事務局・ボランティア活動員全員が、1人1人(社)の加入を目標に取り組むこととしています。

この結果6月22日現在の新規加入数は、個人94人(前年62人)、法人9社(前年0)となっており合計で41人(社)の増加となっています。

ただ、例年秋以降は新規加入率が低下し、退会者が増加する傾向がみられることから、一層の加入促進が必要となります。

このため新たに作成した入会案内のリーフレット(写真)や、キャンペーンチラシを活用するとともに、積極的なPR活動や報道機関への情報提供を行う予定です。

協力会の財政基盤の安定化にむけ会員の皆さまのご協力をお願いします。



一般社団法人北海道美術館協力会役員名簿

会 長	吉野 次郎	理 事	石黒 勇治	管 伸之	藤井 正治	監 事	木村 俊昭
副 会 長	相馬 秋夫		加藤 康夫	杉本 互	堀 利幸		*黒田 幸男
	小林 敬明		金井 英明	戸井 敏夫	松平 英明		
	和田 壬三		腰塚 清一	長峯 慰子			(*新任役員)
専務理事	藤井 勇吉		小砂 憲一	名畑 節子			平成29年6月8日現在

(表1)平成28年度収支決算総括表(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位:円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	合 計	一般会計	売店会計	科 目	合 計	一般会計	売店会計
基本財産運用収入	1,274	1,274	0	事業費支出	26,467,616	7,197,023	19,270,593
特別収入	286	286	0	管理費支出	7,592,056	7,592,056	0
会費収入	11,075,000	11,075,000	0	特定資産取得支出	286	286	0
事業収入	21,483,112	1,724,800	19,758,312	敷金・保証金支出	362,700	362,700	0
寄付金収入	0	0	0	他会計への繰入支出	400,000	0	400,000
特定資産取崩収入	1,876,934	1,876,934	0				
他会計からの繰入収入	400,000	400,000	0				
雑収入	20,599	15	20,584	当期支出合計	34,822,658	15,152,065	19,670,593
当期収入合計	34,857,205	15,078,309	19,778,896	当期収支差額	34,547	-73,756	108,303
前期繰越収支差額	446,591	187,583	259,008	次期繰越収支差額	481,138	113,827	367,311
収入合計(B)	35,303,796	15,265,892	20,037,904	支出合計(B)	35,303,796	15,265,892	20,037,904
予算額(A)	36,423,591	15,163,583	21,260,008	予算額(A)	36,423,591	15,163,583	21,260,008
差異(A-B)	1,119,795	-102,309	1,222,104	差異(A-B)	1,119,795	-102,309	1,222,104

(表2)平成29年度収支予算総括表(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位:円)

区 分	収 入 の 部				支 出 の 部					
	科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考
一 般 会 計	基本財産運用収入	1,500	1,000	500	定期預金利息	事業費支出	8,540,032	7,346,212	1,193,820	
	特別収入	0	500	-500		美術活動協力事業費	6,530,712	6,576,012	-45,300	V活動経費、会報、 会員観覧料等経費
	会費収入	13,544,000	12,264,000	1,280,000	法人、個人会員等年会費	美術講座等開催事業費	611,000	704,200	-93,200	美術講座資料作成等経費、 つどい等経費
	事業収入	2,430,000	2,000,000	430,000	美術講座受講料、 つどい会費等	40周年記念事業費	1,342,320	0	1,342,320	記念講演、ミニコンサート等経費
	寄付金収入	0	0	0		美術展示修復費事業費	0	10,000	-10,000	
	雑収入	10,500	10,500	0	普通預金利息等	美術保存修復費事業	56,000	56,000	0	協力会員の贈呈経費
	他会計からの繰入収入	1,000,000	700,000	300,000		管理費支出	7,203,295	6,914,327	288,968	運営管理費
	特定資産取崩収入	0	0	0		特定資産取得支出	0	500	-500	
	当期収入合計	16,986,000	14,976,000	2,010,000		当期支出合計	15,743,327	14,261,039	1,482,288	
	前期繰越収支差額	-257,155	187,583	-444,738		当期収支差額	1,242,673	714,961	527,712	
収入合計	16,728,845	15,163,583	1,565,262		次期繰越収支差額	985,518	902,544	82,974		
					支出合計	16,728,845	15,163,583	1,565,262		
売 店 会 計	事業収入	24,000,000	21,000,000	3,000,000	商品売上収入	事業費支出	22,993,590	19,994,408	2,999,182	仕入、賃金、施設賃借料等
	雑収入	120,500	1,000	119,500	自動販売機手数料等	他会計への繰入支出	1,000,000	700,000	300,000	
	当期収入合計	24,120,500	21,001,000	3,119,500		当期支出合計	23,993,590	20,694,408	3,299,182	
	前期繰越収支差額	21,856	259,008	-237,152		当期収支差額	126,910	306,592	-179,682	
	収入合計	24,142,356	21,260,008	2,882,348		次期繰越収支差額	148,766	565,600	-416,834	
総 計	40,871,201	36,423,591	4,447,610		総 計	40,871,201	36,423,591	4,447,610		

**永年活動の
ボランティアの方々を表彰**
—協力会設立40周年を記念して—

永年ボランティア活動員として、協力会事業に協力された方々が、設立40周年を記念して定時総会の後、吉野会長から感謝状が贈られました。晴れて表彰された方々は次の通りです。

ボランティア活動員は、近美、三岸美術館での展示解説、売店運営、美術資料等の整理、美術講座の開催、「美術への誘い」の実施、「アルテピア」の編集など、協力会事業をサポートしており、187人(6月8日現在)の方々が活動しています。

□30年以上 (4人)

岡田ヒロ 嘉屋のり子 児玉宥子 田原典子

□20年以上 (20人)

阿部孝子 今村幸子 臼井敬子 柿崎三津子
北上雅能 栗原佐和子 渋谷八重子
高瀬紀子 瀧口美智子 立谷敬子 中川作子
中塚良子 中村清江 鳴海恪子 南間英子
西本真理子 林 裕子 福島靖代 藤井敦子
諸橋英子

□10年以上 (44人)

安達育代 荒田淑子 池田静子 板本晴子
伊藤久仁子 今本良子 梅本礼子
遠藤眞智子 大阪志津江 小川朝也
奥平洋子 笠川多美子 加藤眞智子
岸本衣恵 北川一枝 北本恵美子 切畑文代
國崎みどり 久保絹子 倉益 續 古賀清子
小嶋 茂 小林恭江 小松陽子 斉藤悦子
佐久間美知子 真田篤子 佐野佐智子
佐野美佐子 高橋昌子 津川津多子
伝庄こずえ 富樫正子 中村由紀子
西川喜久世 新田朋子 演出かをる 古谷恵子
松田 猛 松宮従子 松村美穂子 水本絹子
森 淑子 山田広子 (敬称略・五十音順)

40周年記念美術研修旅行
「秋田・青森 美術館と郷土に触れる4日間」

5月29日～6月1日 参加者26名



青森のホテルで津軽三味線奏者と記念撮影



校倉造りを模した「棟方志功記念館」
《釈迦十大弟子》を観る

**アルテピア
ニュース**



奈良美智作
《あもり犬》
青森県立美術館の
中庭に置かれた
巨大な彫刻

駐車場のご案内

近代美術館、三岸好太郎美術館ご来館の折は「ビッグシャイン88 北1条駐車場(北1条西15丁目)」のご利用を!

割引料金でご利用いただけます。

- ★入場から20分は無料。20分を超える分は20分につき100円増
- ★近美：総合案内西側押印機で駐車券に押印してください
- ★三岸：展示室受付の押印機で駐車券に押印してください
- ★身障者割引：精算まえに、ビッグシャイン窓口で身体障害者手帳を提示すると、1時間無料。ただし、上記割引との併用はできません

くわしくは下記にお問い合わせください

- 近代美術館：011-644-6882
- 三岸好太郎美術館：011-644-8901

編集だより

- 爽やかな秋を迎えました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。今年は協力会が設立40周年という節目の年。11月には記念講演やコンサートなど様々なイベントが開かれる予定。皆様のご参加をお待ち申し上げます。
- ただ今、新規会員の確保に奮闘中、潇洒なりーフレットもできました。協力会の飛躍のためにご協力を。
- 新編集スタッフもスタートして半年になろうとしております。より充実した紙面をお届けしたいと考えており、会員の皆様からのご意見や、ご投稿をお待ちしております。どうぞよろしく。(S)



平成29年度移動美術館のご案内

—道立近代美術館コレクション—

《入場無料》

道内各地を巡回する移動美術館が今年度は今金町と江差町で開催されます。

- 9月22日(金)～28日(木)
今金町民センター(25日は休館日) Tel:0137-82-0631
- 10月1日(日)～11日(水)
江差町文化会館(2日と10日は休館) Tel:0139-52-5115